



図書館だより

6月号

雨の日が多い6月、登下校もカッパを着てたいへんで、気分も少し減りますよね。けれども、雨は嫌なことばかりではありません。

この時期の雨は大地を潤し、植物の生育を促す意味でも大切なものです。ゆっくりと雨音を聞きながら読書するのもいいかもしれませんね。

なるかみ 雷神の しまし響もし さし曇り 雨も降らぬか 君を留めむ

(雷が少し鳴って 突然曇る 雨でも降ってくれないだろうか あなたをここに留めたい)

なるかみ 雷神の しまし響もし 振らずとも 我は留まらむ 妹し留めば

(雷が少し鳴って 雨が降らなくても 私はここに留まるよ あなたが留めるのなら)

『小説 言の葉の庭』(新海誠:著)には、万葉集の和歌がいくつか登場します。上の二首も万葉集の相聞歌です。雨の日に出会った2人の物語、映画でも雨のシーンが印象的ですよね。この本は監督の新海誠自身が小説として著したものですが、やはり雨の描写が美しいです。雨の季節にぴったりの一冊、図書室の「ていれぎ文庫」にありますので、この時期にぜひ読んでみて下さい。



第68回青少年読書感想文全国コンクール

課題図書

『クジラの骨と僕らの未来』

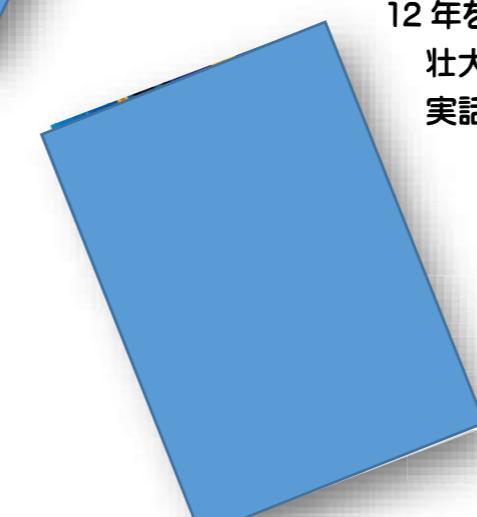
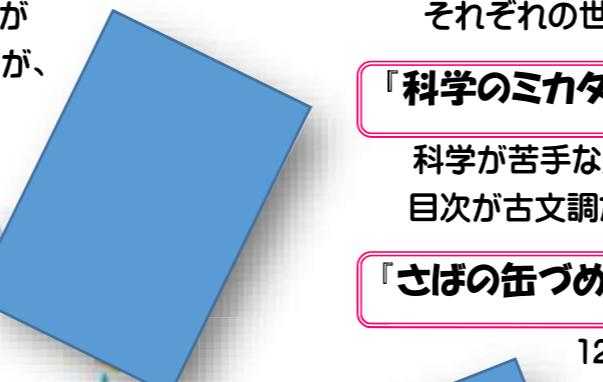
中村玄 (理論社)

『建築家になりたい君へ』

隈研吾 (河出書房新社)

『その扉をたたく音』

瀬尾まいこ (集英社)



読書冊数調査報告

今年度は「生徒1人あたり年間10冊以上」を目標にしています。
5月末に行った読書冊数調査の結果は次の通りです。

1年生 1,030冊(1人あたり **2.9 冊**)

2年生 630冊(1人あたり **1.8 冊**)

3年生 552冊(1人あたり **1.6 冊**)

1年生頑張っています!

1年生はよく図書館も利用してくれています!



7月にまた調査をするので、読んだ本は記録しておいてくださいね。

新刊紹介

「同志少女よ、敵を撃て」「物語ウクライナの歴史」

「ヒトの壁」「ミシンと金魚」など話題作がたくさん入りました。

『はじめての』 島本理生・辻村深月・宮部みゆき・森絵都

4人の人気女性作家が YOASOBI とコラボして作った作品です。

「はじめての」をテーマに生まれた4つの物語。

それぞれの世界を味わいましょう。

『科学のミカタ』 元村有希子

科学が苦手な人、文系の人でもわかりやすい科学エッセイ。

目次が古文調なのもおもしろいです。

『さばの缶づめ、宇宙へ行く』 小坂康之 林公代

12年をかけ、先輩から後輩に引き継がれていく夢。

壮大な宇宙が自分たちの生活と繋がっていく。

実話です。

図書委員会から

6月から図書の貸出・返却担当が

3年生から2年生に交代しました。

図書館前のホワイトボードも

2年生が担当しています。

毎日頑張って書いているので、

前を通った時には、ぜひ、みてください!